

学位被授与者氏名	徐 嘉麒 (じょ かき)
論文題目	古代天皇の葬送儀礼について—飛鳥・奈良～平安初期を中心に—
論文審査結果の要旨	<p>天武天皇以降の歴代天皇の葬送に関する記録を丹念に収集・整理し、網羅的に論じることによって、歴史的な変化とその要因となる宗教思想や時代思潮の影響を細かく検証できたことは評価される。また、史料の読解に大きな誤りの無いことも評価できる。ただし、主要な先行研究に一通り目を通してはいるが、それを十分に活用できていない点が多くある。さらに、中国の葬送儀礼について十分な整理を行い、日本律令の喪葬令と唐の葬制との比較が行われていれば、より論考の中身を深化させることが出来たであろう。平安中期以降の天皇の葬送儀礼につながる展望が欠けていることも結論の物足りなさの一因になっているように思われる。以上のような惜しまれる点もあるが、修士論文としては十分な水準に達したと評価できる。</p> <p>2023年2月9日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館3-321教室において、審査委員全員の出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののち、全員一致で当該論文が修士(比較文化)として十分な内容であると判定した。</p>